
BLEACH 転生者Kの物語。

矢川 智

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BLEACH 転生者Kの物語。

【Nコード】

N2610BA

【作者名】

矢川 智

【あらすじ】

この世界はつまらない。妹だつて、もうじき死んでしまう。そもそも生きていることに、意味なんてあるのだろうか——？少年は、そう思っていた。そんなある日、お決まりの展開、（交通事故らしいが）神サマに殺されてしまった少年。BLEACHの世界：原作を全く知らない少年は、死神に転生する。生きがいを見つけることが、この世界の目的。

第1話 プロローグ

—— じっは ——

— どこだ？ —

気がつくど、真っ白い空間に”オレ”はいた。

「お、氣いついた？

おそいぞー、もうちょっとで先送りになるとこだったぞあー」

そして、”オレ”の目の前に白い服をきた27歳くらいの変人がいた。

【…だれだ？】

「んー…

ま、お前の言う『神様』ってとこだな」

何いってんだ？コイツ。

【……………】

「…軽く傷つくよ…無言でいられると……………」

【じゃあ死ね】

「……………」

【なに急に黙り込んでんだ】

「いや……………」

大変申しにくいんだけどさ…

君、さっき死んじゃったんだよね」

【…は？】

コイツ、頭おかしいのか。

「いや、だから君死人。

オレ神様。」

【やっぱ死んどけ、おまえ。】

「…まあいい。

でさ、君を死なせちゃった理由なんだけど…

君、妹を助けたいって思ってたでしょ？

で、君をオレが偶然見かけてさ。

カワイソーだから、妹の代わりに君を死なせちゃったって訳。

でもさ〜

後で気づいたんだけど、それってご法度だったんだよね。

だから、君をどこか違う世界に転生させてあげようってこと。

「ここまで大丈夫？」

【当たり前だろ】

つまりこいつは馬鹿と。

「君が頭良くって助かったよ。」

【……………】

これを理解できない馬鹿が存在するのか？

いたとしたら、この自称神くらいだな。

「ま、そういうわけで”転生”してくれない？

どこ行くかはルーレットで決めて欲しいな……」

【……………】

「…しゃべってよ！　さみしいじゃん！」

【…だったら早くしろ】

「…わかりましたー…」

自称神がルーレットを取り出す。

「じゃ、まわすからダーツ方式でやってよ」

と言ってルーレットを回す。

【……………】

シュッ

ダーツの針を投げる。

「おゝ…　これまたすごいのに当たったねえ…」

君が転生するのは、

”BLEACH”の世界にケッテー！

【……………？】

「…もしかして、”BLEACH”知らない？」

【知らねえ】

”BLEACH”ってなんだ？

「ワォー…」

ま、それはそれでいつか。

じゃあ早速…………と、その前に。

なんかつけて欲しい能力とか要望とかある？」

意外にしっかりしてる自称神。

この自称神、能力なんてつけれるのか。

【…………容姿、名前、身体能力とかは今のオレ通りでいい。

能力はどうでもいい】

はつきし言って、能力なんてジャマになるだけだ。

その能力のおかげで面倒に巻き込まれたくねえからな。

「つまんないなー…

あ、じゃあ君好きな武器とかある？」

なぜこのタイミングで”武器”というワードが出て来る？

…それはそれとして。

【…………銃だ】

「よし！銃だな？」

…………で……………」

なにやらゴソゴソと言っている自称神。

「……………だな。」

では、早速君をブリーチの世界に送ります！」

【勝手に決めんな】

しかし、勝手に進める自称神。

「それでは、さようなら……」

あ、会いたいつて思えばいつでも夢とかであえるから。

でも、さすがに”BLEACH”の世界でオレが出現できないかな
「」

一通り自称神が話し終わると、急に”オレ”の身体が光りだした。

【！！？】

てめえ、変なところに送ったらただじゃ……】

フッ

”オレ”が言いかけた言葉はとぎれた。

そうして神は後悔する。したところでもう遅いのだが。

「なんでオレってこんなのに対処しなきゃいけないんだ!？」

…まあ、原因はオレにあるんだけどさ。」

真っ白い空間には、
すごく後悔した神が一人、
たたずんでいた。

第2話 出会い

「あのクソ自称神……」

次ぎあつたらただじゃおかねえ……！」

ちゃんと”自称”は忘れない。

現在、”オレ”は空中を落下中だ。

服装をさつき見たところ、なんだかわからねえが黒い着物(?)を着ている。

それに、背中が重いと思ったら、デカイ剣を背負っていた。

まあ、暗いからそこまで色は分らないが。

…しかし、いくらなんでも落下時間が長い。

かれこれ3分くらいは落ちているんじゃないか？

そう思っていると地上が見えた。

道路が真下に見える。

「体勢が良くないと即死？」

そんな事を思った「オレ」は、急遽体勢を立て直

そうとしたが、体勢くと思うのが遅すぎた。

いやな音を立てて、「オレ」は地面に落ちた。

その瞬間、「オレ」は意識を手放した。

「お、気がつきました？」

い~~~~~∴このまま起きなかったらどうしようかと思いました
よ~~~~~」

変な帽子のオッサンが”オレ”を見ている。

「…誰だ？」

そういえば、背中にあったはずの剣がない。

「つと、その前に。」

オレは、風見^{カザミ} 神威^{カムイ}っつー者だ」

オレがそう言うのと、帽子のオッサンは驚いた顔をした。

「…普通、自分の正体を先に明かすもんスかね？」

「…当たり前だ。」

相手の名前を聞くときはまず自分から。

それがオレン家の教えの一つだ」

「ぶっ
」

「？」

「あっははははははは！！！！」

面白いつスね、カムイさん？」

「急に笑い出すオマエの方がおもしれえ」

「はっはっは……」

アタシは、浦原喜助っていう者っス。

どうぞよろしく」

「ああ。よろしく」

とりあえず挨拶が終わったところで、浦原がオレに質問して来た。

「ところで……」

貴方死神っスよね？

なんであんなところで倒れてたんですか？」

いきなりイタイところを突いてくる。

「…知らねえ」

「知らないって…」

少し困っているように見えるが、オレにはそんな事関係ない。

「つつーか、”シニガミ”ってなんだ？」

「え？」

「だから、シニガミってなんだよ」

「貴方、死神じゃないんスか？」

の割には斬魄刀とか持っていましたけど…」

斬魄刀ってなんだ？

「ザンパクトウ？」

「…もしかして、記憶喪失とかですか？」

「さあな。

生前のことはちゃんと覚えてるし、名前も分かるが？」

「…！」

「…そうですか……」

急に黙り込む浦原。

「まあ、とりあえずジャマしたな。」

そろそろ（当てはないが）行くか。

と思ったら、またいたいところを突かれた。

「…行くあてあるんすか？」

「
…ねえよ。」

だが、あんたの所にいつまでもいるわけにもいかねえだろ？」

「行くあてないんでしたら、ウチで働…きませんか？」

…こいつ、『いま働きませんか？』って言わなかったか？

「
…は？」

「いや、行くあてないんだったらウチ来ませんか？って言っただけ
っスよ」

ニヤ、と笑いながら浦原が言った。

——それが、
”オレ”の知る由もない原作のキャラクターと
の出会いだった。

第2話 出会い（後書き）

1月9日訂正：黒咲↓風見 にしました。

第3話 黒猫（前書き）

”転生者K” 前回までは。

B L E A C Hの世界に転生した風見神威。

転生したときは、もう既に死神だった。（空から落下中。）

” B L E A C H ” を知らない神威は何の抵抗も出来ず、地面に墜落。
偶然通りかかった浦原喜助に助けられ、自己紹介とかをする。

そして、浦原に「ウチで働きませんか？」といわれた神威だった。

以上、何か良く分からないあらすじでした。

第3話 黒猫

「ふざけんな……」

なんでオレが同じ奴に2度も恩をかけられなきゃならねえ」

なんだかんだ言って、人に恩はかけるといいが、かけられるのはごめんだ。

「じゃー言い方を変えましょう。」

”ウチで働いてください”

…これでいいっすよね？」

見事に穴を突いてくる浦原。

「!!」

……お前、オレがこういうのを嫌いだって知って言ってるのか？」

睨みながらオレが言うと、

「いや〜…そんな事あるわけないっスよ〜」

へらへら笑いながら浦原は答える。

「…まあいい。」

それはお前の”頼み”なんだな？」

「ええ」

「…じゃあいい。」

これから世話になる」

一応少しだけ頭を下げる。

「…オレの肩に背負ってたはずの剣はどこに行った？」

「あら？

やっぱり斬魄刀知ってるんですか？

…なら話は早い「何が話は早い、じゃ」

……あんま驚かさないでくださいよ

夜一さん「

夜一、と言った先には、黒猫がいた。

というか、やっぱりアイツは剣の在り処を知っているのか。

「…おぬしは馬鹿だな？」

「ああ。オレでもこの猫の気配分かったぜ？」

オレがそう言っていると、猫と浦原は驚いた顔をした。

「…カムイさん、貴方……何者つスカ……？」

「あ？何者って……」

ただの………」

ここでオレは気づく。

オレって、もう一般人じゃねえな。

転生者だーとか言ったら、ダメだし……

……オレは何者だ？

「……………」

オレが黙っていると、浦原は、

「…言いたくないならいいッス。

ま、気長に待ちますよ」

と言った。

しかし浦原は諦めてくれたが、夜一と呼ばれた猫は諦めそうにない。

「…おぬし、本当に死神か……？」

「……ああ？だから、シニガミってなんだよ。

…んなモン、知らねえよ」

そう言うと、夜一はため息をつきやうと諦めてくれた。

と、唐突に浦原が言った。

「それじゃあ、もう夜ですし。

アタシ等は今更にいけますよ。…夜一さん、いけますよう？」

…今、夜だったのか。

「…ああ、分かった。

……今度ゆっくり話そうか？

カムイとやら」

「…ああ」

…さて、あのクン………

いや、カス神（自称）に会いに行くか。

オレは、もともとあった布団にもぐり、

あのカス神（自称）に会いに行くために寝た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2610ba/>

BLEACH 転生者Kの物語。

2012年1月9日23時45分発行